




**プログラム (予定)** ※内容や登壇者、進行時間等について、一部変更となる場合がございます。予めご了承ください。 2021年5月24日時点

時間	内容	登壇者 (敬称略)
----	----	-----------

13:30	<b>開会挨拶</b>  日本財団 会長 菅川 陽平  香川県 知事 浜田 恵造  フリーキャスター 伊藤 聡子	<b>司会</b>
-------	--	-----------




13:45	<b>基調講演</b> <b>『～海洋ごみに関する最新の科学的知見と影響～』</b> 海洋ごみとはどのようなものか、何が問題となっているのか。東京大学と日本財団による共同調査事業にも言及しながら、最新の科学的知見をご紹介します。	 東京大学 大気海洋研究所 教授 海洋ライアンス連携研究機構 副機構長 道田 豊	
14:05			



14:05	<b>現場中継</b> <b>『海洋ごみによる危機～現場からの報告～』</b> 海洋ごみもたらしている被害、海洋ごみの発生実態を、実際の現場から生レポートします。 高松市瀬戸内漁業協同組合 男谷 勝 / 岡山市立御南中学校 / 一般社団法人E.C.オーシャンズ 代表 理事 岩田 功次		
14:20			

14:20	<b>報告</b> <b>『対策に向けて～海洋ごみの実態～』</b> 「なぜ海洋ごみは発生する?」「海の中はどうなっている?」「空から見たら?」陸・海・空で実施した最先端調査から海洋ごみの実態に迫ります。 ① 『瀬戸内における海洋ごみの発生源 河川流域での調査』 ② 『最先端調査でわかった海底・漂着ごみの状況』	<b>陸</b>   日本財団 海洋事業部 シニアオフィサー 塩入 同	<b>海</b>   海洋研究開発機構 情報コミュニケーションプログラム フォロワー 石川 洋一	<b>空</b>   (株)天の枝 代表取締役社長 工藤 裕
14:50				

休憩 (10分間)

15:00	<b>トークセッション</b> <b>『異分野セクターによる挑戦』</b> 企業、学生、文化、スポーツ、市民等、様々な分野の皆さまから、その人“ならでは”の海洋ごみ対策の取り組みを、実演やVTR・写真を交えて紹介します。 <b>— 新作“海ごみ”落語 by 鈴々舎馬るこ —</b> 落語家。山口県防府市出身。ラジオ文化放送「くにもるジャパン極」レポーター、BS日テレ「笑点特大号」若手大喜利レギュラー等、多方面で活躍。	<b>登壇者</b> <b>学校</b> 山陽学園中学校・高等学校 教諭 (地歴部顧問) 井上 貴司と生徒 <b>企業</b> リファインバース (株) 常務取締役 加志村 竜彦 <b>メーカー</b> 兵庫県靴工業組合 <b>スポーツ</b> (株) 大分フットボールクラブ (大分トリニータ) 渡邊 浩平 <b>市民</b> 京都大学フィールド科学教育研究センター 准教授 伊勢 武史 <b>デザイン</b> 東京大学海洋教育センター 特任講師 / 一般社団法人 3710Lab 主宰 田口 康大 ※福山市立瀬戸の海洋館の教員から海のデザイン教育の授業風景を生中継します	<b>特別実演</b> 	<b>司会</b>  フリーキャスター 伊藤 聡子 <b>コメンテーター</b>  NPO法人グリーンズ理事 藤松 佳宏
15:55				

15:55	<b>トークセッション</b> <b>『瀬戸内オーシャンズXの展望』</b> シンポジウムを振り返りつつ、今後どのような取り組みを実践していくのか。ジャーナリストや研究者とともに座談会形式で考えます。	 日本財団 常務理事 海野 光行	 NHK 松山放送局 記者 勅使河原 佳野	 愛媛大学大学院工学研究科 生産環境工学専攻 環境建設工学コース 日向 博文
16:10				

16:10	<b>閉会</b> 瀬戸内オーシャンズX推進協議会 会長 木村 士郎	 
16:15	<b>終了</b>	

<新型コロナウイルス感染防止対策> ・スマートフォンをお持ちの方は、厚生労働省が提供する新型コロナウイルス接触確認アプリ『COCOA』を事前にインストールしてください。  
 ・会場に入室の際はマスクを着用ください。(お持ちでない方にはマスクを配布します。着用されていない方は入場をお断りする場合がございます)